



# TOKYO CULTURE CREATION PROJECT

NEWS  
LETTER  
Vol.4

平成 24 年 2 月 7 日  
東京文化発信プロジェクト室  
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

当プレスニュースレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

## 地域とアート

### ～地域における文化の役割とは～

東京文化発信プロジェクトでは、都心や多摩、島しょなど都内各所で、それぞれのエリアならではの様々なプログラムを展開しています。

本ニュースレターでは、『地域とアート』をテーマに、各プログラムの概要のほか、地域に根ざしたアートの役割や重要性について、主催者や参加アーティストの方々の声を交えてご紹介いたします。

**CLOSE-UP①：「六本木アートナイト 2012」 アートでつくろう、日本の元気  
アーティストグループ Antenna（アンテナ）の田中英行氏が語る「地域とアート」**

## 新しい形の都市とアートの融合に挑戦！「六本木アートナイト 2012」 地域における文化の役割とは・・・

六本木の街に、デザイン、音楽、映像などを含む多様なアート作品を点在させることで、非日常的な体験を作り出し、生活の中でアートを楽しむというライフスタイルを提案するイベント「六本木アートナイト 2012」。本イベントに出展する、日本の歴史や文化より着想し、多様なメディアを用いて創作活動を行うアーティストグループ Antenna（アンテナ）の田中英行氏に、イベントに向けた意気込みや地域に密着したアートイベントの重要性についてお伺いしました。

### みんなで作る、みんなのお祭り

#### —「六本木アートナイト 2012」での出展作品および活動内容を教えて下さい。

今年は、Antenna の大きなテーマを“ジャッピーと作るみんなのお祭り”として、日本を元気にしよう、ハッピ

ーにしようという想いのもと、参加型のお祭りを東京ミッドタウンの玄関部分（キャノピー・スクエア）と、芝生広場にてやぐらを組んで、みんなでお祭りをつくるというプロジェクトを考えています。

ジャッピーというのは、

“Japan”と“Happy”を掛け合わせてできたキャラクターで、みんなの幸せや日本のことなどをもう一度みんなで作る機会を持てるようなことをアートで取り組みたいと思い生み出しました。



© Nobutada Omote

ジャッピーは日本を応援します！



© Antenna ジャッピー / Jappy

このジャッピーのコンセプトを骨格にして展示をしたいと思っています。この展示では、「幸せ札」というものを作るのですが、来場者や地元の方など、いろいろな方々に、そこにみんなの“幸せ”を書いてもらい、それをジャッピーの御輿ややぐらに貼付けられるようにする予定です。

人の数だけ“幸せ”があると思う、それをみんなで考えたい

—「六本木アートナイト 2012」を通して伝えたいことはどんなものでしょうか？

“幸せ”という言葉は一つですが、人が百人いたら百人の、千人いたら千人の“幸せ”があると思うのです。みなさんにとって価値は一つではないということです。こうしたことは普段は意識しているものではありません。今回の展示で「幸せ札」を使い、そういったものを改めて言葉にすることで、意識してなかったことを、もう一回再認識するような仕組みを作れたらと考えています。

史実に基づく架空の物語「六本木伝承」

—今回、作品に六本木ということを意識した点がありますか？

いつも作品を作る上で、昔からずっと受け継がれてきた“過去”のものを、“今”とうまく接続して作品に落とし込むということを心がけています。今回も六本木の歴史を調べ、六本木の地名の由来が、松が六本生えていたとか、木の姓を持つ大名屋敷が六つあったなど、色々な面

<Antenna (アンテナ) プロフィール>

2002年結成、京都を拠点に活動するアーティストグループ。日本の歴史と文化より着想し、多様なメディアを用いて創作活動を行う。Antennaはコアメンバーの市村恵介と田中英行、他に絵師：小鐵裕子、塗師：川崎亮らによって構成される。

## 「六本木アートナイト 2012」開催概要

- ・日時：平成24年3月24日（土）10：00～3月25日（日）18：00
- ・※イベント等が集積するコアタイムは、日没（17：56）から日の出（5：38）まで
- ・開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21\_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設やギャラリー、飲食店など
- ・入場料：無料（但し、一部の美術館企画展及びプログラムは有料）



©2010 六本木アートナイト実行委員会

白い伝承や史実を集めて、それらを架空の物語にし「六本木伝承」というアニメーションを作りました。これは、「六本木アートナイト 2012」当日上映する予定で、現在、計画が進行しています。

六本木というのは、現代の日本を象徴するような街だと思います。毎日が“ハレ”の状態というか、非日常的状态がずっと繰り返されている祝祭的な場所のように感じています。今の東京っぽさを感じる場所ですね。

欠落していた部分に目をむけるきっかけに

—去年は震災の影響で中止となりました。そのときはどんな思いでしたか？

震災があつて、しばらくは何も考えられませんでした。京都に住んでいるので、具体的に被害はなかったのですが、今までやってきた流れみたいなものが断ち切られたような気がしました。「六本木アートナイト」が中止になったときは、こういったときにこそ、アートのイベントが大切なのではと感じました。今回震災があつたことで、僕自身もそうですが、日常が断ち切れ、今まで欠落していた部分に目をむけるきっかけになったのではないかなと思っています。震災以降は、今まで自分たちが伝えてきたメッセージをもっと声を大きくして、広げていきたいなと思っています。

少しでもみんなの救いになるような作品にしたい

—3月に本番を迎えますが、今の心境や意気込みをお聞かせいただけますでしょうか？

より多くの人々に自分たちの想いが伝わるよう、またワークショップ等のイベントにも、参加してもらえるようにがんばりたいですね。少しでもみんなの救いになるようなプロジェクトができればいいなと思っています。

## 都内の人気エリアを舞台に開催される国際的な映像の祭典 映像の裏側とは…



開催が直前に迫る「第4回 恵比寿映像祭」。テーマの設定や企画のとりまとめなどを務める恵比寿映像祭ディレクターの岡村恵子氏に本イベントの見どころや、地域とアートの関係についてお話を伺いました。

“いかに作られているか”という視点で、楽しみ方を発見してほしい

—今回のテーマは、『映像のフィジカル』ですが、見どころなどについて教えてください。

『映像のフィジカル』というのは、ものすごくベーシックなテーマだと思っています。映像を観るときというのは、物語や、人や、場所など、「そこに何が映っているんだろう？」という視点で、見てしまうことが多いと思います。今回は、そこから一步踏み込んで、その映像が、“いかに作られているか”という視点で、映像の面白さの色々な楽しみ方を発見して頂けると、より映像の味わい方が、深まってくるのではないかと考えています。

そういう視点は、これまでも取り入れてきたつもりですが、今年は改めて正面から“いかに”というところを強調できるような作品を集めました。例えば、映像を見ているときに、それを映している機械（ハード）の方は誰も見ませんよね？今回の出展作品では、機械そのものが主役になっているものもあります。今は、とてもメディアの選択肢が広いので、映像を作る人も多くの選択肢の中から、自分の表現したいことや、見せたいものに一番ふさわしい方法を選んでいると思います。どういうものを選んでるか、“いかにそれが見せられているか”という視点で見たら、逆にそこで何を言おうとしているのかという、映像への理解も深まるかなと思っています。

ヴァーチャルな映像文化を支えるのは、映像のフィジカルな部分

—『映像はフィジカルなもので（も）ある』が副題となっておりますが、（も）に込められた意図とは？

普通、映像は実体のないものなので、例えば『映像はヴァーチャルなものである』と言った方が私達にとって自然かもしれませんが、今年あえて「映像はフィジカルなものである」としているのは、ヴァーチャルな映像を成り立たせるには、ものすごく物理的なインフラと、それを見る人というのが必要だからです。“フィジカル”には「物理的・物質的」と「身体的」という二つの意味があります。映像には、ハードとそれを受け取る人のフィジカル性の両方が関わっているので、今年はそのにあえて目を向けて欲しいという意味で、「で（も）ある」としました。

このようなテーマにした背景には、東日本大震災のときに、さまざまな物理的なものが壊れうる、あたりまえと思っていた前提が前提でなくなりうるということであらためて突き付けられたということがあります。企画を立てている頃には、東京でも計画停電が行われていましたし、映像が電気機器をはじめとしたハードに依存していること、前提となるインフラに対する支えを失えば、映像文化そのものを維持できないという現実を突きつけられました。同時に、メディアにできること、二次的に現実を体験させる映像に何ができるのか、というようなことも含めて、映像について考えることの多い一年だったと思っています。

知らない街を発見できるチャンス

—このようなエリアに密着したイベントの重要性やそれがもたらす影響はどういったものがあるとお考えですか？

どんなきっかけであれ、ちょっと行ってみようというイベントなどがあることで、自分の知らない東京に行けるチャンスが広がると思いますし、目的はイベントを見に行くことだとしても、知らない街を発見できるメリットはあると思います。また、知っているはずの街、つまりは場所としてのコミュニティに所属している人達にとっても、再発見をする機会になるのではないのでしょうか。参加の仕方も色々だとは思いますが、文化的な活動というのは、「物質的」であるハードとしての箱、つまりインフラが整うことと、「身体的」である人が育つということ



の両方伴わないと根ざしていきません。各エリアに文化活動への接点が増えることで、「じゃあここに箱ができたらどうだろう？」という想像力も広がりますし、「どんな箱をデザインしたらいいか」ということを考えることにもなるでしょう。

大きかったり敷居が高い箱だと、一般の方にとっては参加の仕方や、主体的な関わり方を持ちにくいと思うのですが、街や場所に根ざしたのなら、さまざまな参加の仕方を見出し、主体的に関われそうと思う人が増えるので、そこから文化の担い手のプロになる人も、プロのお客さんになる人もいると思います。

色んな働きかけを通して、自分たちのものとして、文化を考える人達が育っていくということが、文化の活性化と定着に繋がるのではないかなと思っています。

### 文化的なものを成熟させていくのに程よい街

#### —「第4回 恵比寿映像祭」において、恵比寿ならではのポイントがありましたら教えてください。

「恵比寿映像祭」という名前をつけたときには、恵比寿＝写真美術館という考えがありました。写真美術館のスタッフが、その施設をメインに使って行う映像祭なので、「写真美術館映像祭」でもよかったです。写真美術館そのものが恵比寿という地域に根ざして15年以上経っているという蓄積があり、この街自体のポテンシャルの高さや、文化の発信事業をする場所としての良さ、魅力というものを実感していたので「恵比寿映像祭」と命名することにしました。

恵比寿という街は、成熟しているといえますか、空気感そのものに特色があると思います。生産性重視の経済活

動とは違って、文化的な創造性を育むにはじっくり腰をすえて物事を考える時間が必要だと思うのです。恵比寿は新しくもあり、急いでいない街。文化的な活動の拠点として、とても心地の良い場所だと思います。

恵比寿ならではの点では、去年から地域連携プログラムと題して、すでにこの地域でアートや文化に関わる活動をされている施設や組織の方達にも、それぞれに「映像のフィジカル」というテーマを踏まえた企画を実施するという形でご参加いただいております。

### 普段触れないものにも興味を持ってほしい！

#### —今回のオススメ作品はありますか？

100人以上の作家が参加していて、全部おすすめなのですが、せっかくなら、間違いなく自分の食指に引っかかりそうなものと、絶対普段だったら見ないだろうと思うもの両方を見て、その違いを愉しんでいただきたいです。恵比寿ガーデンプレイスのセンター広場で行うオフサイト展示では、エキソニモという気鋭のアート・ユニットによる体験型の作品も展示します。美術館の中だけではなく、屋外にもお忘れなくお立ち寄りください。

また、今回は、ミュージシャンのジム・オルークさんと建築家の鈴木了二さんにそれぞれ上映プログラムを組んでいただきました。鈴木さんは、展示にも出品されますし、ジム・オルークさんは、会期の最終日に、無声映画のコンテンツに合わせて、即興音楽をつけるというライブ上映も行います。

### <岡村恵子氏 プロフィール>

恵比寿映像祭ディレクター/東京都写真美術館学芸員。東京都現代美術館学芸員を経て2007年より現職。「MO T アニュアル 2000 低温火傷」(2000年)、「転換期の作法 ポーランド、チェコ、スロヴァキア、ハンガリーの現代美術」(2005-06年)、「大竹伸朗 全景 1955-2006年」(2006年)などの企画に携わる。昨年、プレ・イベントとして手掛けた「映像をめぐる7夜」(2008年)をふまえ、恵比寿映像祭を立ち上げる。

## 「第4回 恵比寿映像祭」開催概要

- ・日程：平成24年2月10日(金)～26日(日)の15日間 ※月曜日を除く
- ・開館時間：10:00～20:00 ※26日のみ18:00まで
- ・会場：東京都写真美術館 及び 恵比寿ガーデンプレイス センター広場 他
- ・料金：入場無料 ※定員のある上映・イベントは有料



## CLOSE-UP③：「東京アートポイント計画」 「地域とアート」に関するプログラムレポート

「東京アートポイント計画」では、アートによって結ばれた、人・まち・活動の接点「アートポイント」を作り出すために、まちなかにあるさまざまな地域資源を結ぶアートプログラムや、教育・防災・産業・環境・福祉などさまざまな分野と協働するアートプログラムなどを展開しています。

本ニュースレターでは、平成 23 年の年末に開催された「東京アートポイント計画」のプログラムの中から、「ひののんフィクション 2011」、「ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト」の当日レポートを以下、ご紹介させていただきます。

### ■「ひののんフィクション 2011」



「ひののんフィクション 2011」は東京の郊外都市日野を舞台としたアート活動を通して、日野の新たな文化的な生活空間を構築することを目指すプログラムです。平成 23 年 11 月 19 日（土）には、「ひののんフィクション 2011」の参加アーティスト楠原竜也氏によるワークショップ「森に入る」が開催されました。当日は雨にも関わらず 5～7 歳の子供たち 12 名が、日野

市にある仲田公園「自然体験広場」で振付家楠原氏の先導に従って森に入り、探検を行いました。かつて蚕糸試験場だった自然体験広場の敷地内は豊かな緑に覆われており、参加した子供たちからは「これは何の実？」や「鳥がいる！」といった声があがるなど、自然との触れ合いを自由に楽しんでいました。



### ■「ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト」



「ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト」では、多くのギャラリーや地域資源を持つ台東区の谷中を舞台にさまざまな参加型プログラムを展開。若手の表現者や地域の人々との関係を築きながら実施しています。平成 23 年 11 月 23 日（水）には、「きむらとしろうじんじんによる野点（のだて）」が開催されました。本プログラムは陶芸家のきむらとしろうじんじん氏が陶芸屋台を用いた野点を谷中の路上で行い、訪れた人は誰でもその場でお茶碗の絵付けやお抹茶体験に参加できる内容

となっており、当日は天候にも恵まれ、多くの来場者で賑わいを見せました。陶芸目的の方はもちろんのこと、190cm 近い長身のじんじん氏のドラッグクィーン姿に思わず足を止め、見入る人が続出するなど、閑静な住宅街の路上が、非日常的な空間へと変貌しました。陶芸を行った参加者からは「また来年も参加したい」、「じんじんさんに会いたいから参加した」といった声が多く聞かれ、作成したお茶碗を手に満足した様子で家路に歩いていました。



## プログラム PICK UP!!

「東京アートポイント計画」では、2月から3月にかけて、前頁でご紹介いたしました「ひののんフィクション 2011」、「ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト」に加え、足立区千住を舞台にした「アートアクセスあだち 2011 音まち千住の緑」など、都内各所にて多数プログラムを展開します。以下、主なプログラムをご紹介します。

### ■「東京アートポイント計画」

#### ◆「ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト」

##### ぐるぐるミックス一日体験教室

日程：平成24年2月15日(水)

会場：台東初音幼稚園内 初音ホール

参加費：500円

内容：おまわりさんの仕事道具を紹介してもらい、身近な材料で工作します。自分なりのパトロールグッズを身につけてみんなで遊びます。



平成22年度「ぐるぐるミックス一日体験教室」の様子

#### ◆「アートアクセスあだち 音まち千住の緑」

##### Memorial Rebirth 千住いろは通り

日程：平成24年3月17日(土) 12:00～/15:00～

会場：千住いろは通り商店街

アーティスト：大巻伸嗣

入場料：無料

内容：1分間に最大1万個のシャボン玉を発生させるマシンを千住いろは通り商店街に設置。シャボン玉が、見慣れたまちの風景を光へと変貌させます。

##### 野村誠ふるデュース 風呂フェッショナルなコンサート

日程：平成24年3月17日(土) 13:00～14:00

会場：タカラ湯

アーティスト：野村誠

入場料：洗い場席1,200円、脱衣所席1,000円(要予約)

内容：野村誠と公募で集まった演奏者が、全国的にも有名な銭湯「タカラ湯」を舞台にだじゃれをテーマにしたコンサートを行います。

##### 空飛ぶオーケストラ大実験

##### ー 千住フライングオーケストラお披露目会

日程：平成24年3月20日(火・祝) 13:00～15:00

会場：虹の広場(荒川河川敷)

アーティスト：大友良英、梅田哲也、遠藤一郎、堀尾寛太、毛利悠子、チャンキトルネエド(選抜メンバー)

参加費：無料

内容：大友良英と、企画をゼロから構成する「チーム・アンサンブルズ」が、メンバーで制作した「音の出る凧」を使って、空からの演奏会にチャレンジします。



野村誠《お湯の音楽会》

### 東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

〈この件の取材・掲載に関する報道関係の皆様からのお問合せ先〉

東京文化発信プロジェクト 広報事務局 担当：村澤・宮島・坂元・村木

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-15-1 赤坂ガーデンシティ 18F

TEL:03-6675-9298 FAX:03-5572-6065 MAIL:tokyobunka@vectorinc.co.jp